



ピン梁の隙間がダイヤ縁からにならない！

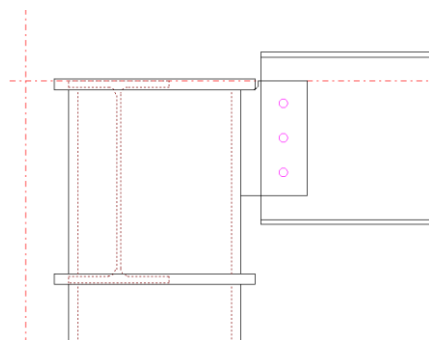
パラメーターの設定により選択可能です。

【ファイル】 - 【パラメーター】 - データ作成 - 34.柱、梁作成関連 - 18) 仕口に取り付くピン梁の位置 の設定により、隙間の基準が変更できます。

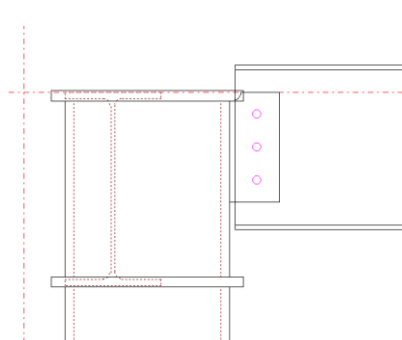
		項目名称	設定値
図面作成	工事別パラメーター	16 梁剛継手基準位置	2 - 梁芯
		17 垂直ハンチ外基準	2 - 柱面
加工図作成	34.柱、梁作成関連	18 仕口に取り付くピン梁の位置	1 - 下柱ダイヤから
		19 垂直ハンチプレート展開 - ロール材	1 - なし
データ作成	36.柱仕口関連	20 垂直ハンチプレート展開 - ビルド材	4 - プレート展開
		37.SRC関連	
二次部材作成	38.母屋データ作成	21 鋼材・三角プレート位置(mm)	30
		39.胴縁データ作成関連	
		22 鋼材・プレート2枚位置(mm)	30
		40.型紙作成関連	
	41.溶接・塗装関連		
	42.符号管理関連		
		23 ウェブハンチ設定	【16, 0.4, 0.3】

(例) 柱に取り付くピン梁が50 上がっている場合

【1-下柱ダイヤから】



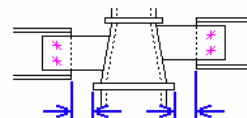
【2-接続部材面】



【1-下柱ダイヤから】

下通しダイヤの縁からの隙間になります。
柱マスタのダイヤの縁で設定している数値が優先となり、仕口詳細設定でダイヤの縁を変更している場合でも考慮されません。

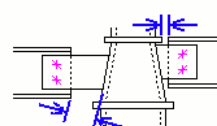
1.下柱ダイヤから



【2-接続部材面】

仕口（柱）の面からの隙間になります。
梁のフランジがダイヤフラムと干渉する位置にある場合は、ダイヤフラムの縁からの隙間になります。

2.接続部材面



※現場溶接のガセットの場合は常に柱面からの隙間となり、また変形ダイヤの場合は『2-接続部材面』に設定している時はダイヤを考慮した隙間となりますが、『1-下柱ダイヤ』にしている場合、ダイヤの形状を考慮しない為、【梁】 - 【修正】または【継手】 - 【入力】にて隙間の数値を調整する必要があります。